

短歌集

たんかしゅう

はねず日記

につき

第一集

鹿江朱華

かのえ

はねず

【まえがき】

皆様、はじめまして。鹿江朱華と申します。

この度は、短歌集『はねず日記』の第一集を手に取って下さり、まことに有り難う御座います。

歌人として、自分なりの短歌を何首も詠み、SNSに投稿し続けた結果……その作品数はあつという間に、なんと三桁を越えていました！ 私自身も実は正直、その数に驚いてしまった程度です。

そこで私も思い切って、短歌を嗜む他の方々のように、歌集を出してみようと決意しました。

自らの実体験や、その日その時の心情や感情……それらを短歌にする事が多く、まるで日記みたいだなと感じたので、当歌集のタイトルを『はねず日記』に決めた次第です。

拙い作品ばかりではありますが……皆様がどれか一首でも、気に入った短歌を見つけられたら、私も非常に嬉しく思います。

『はねず日記』第一集、どうか最後までお楽しみ下さい。

目 次

あとがき	第三章	(二一)	第二章	(一)	第一章	(一)
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•
2 3	1 7		1 1		5	

※ 無断転載・複製・複写・Web上への掲載（SNS・
ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。
（但し、当歌集を入手した旨を報告する目的に限り、表
紙のみを撮影・掲載するのは可）

※ 処分する際は、可燃ゴミとして廃棄してください。

※ 当歌集を出すにあたり、短歌を数首ほど手直し（推敲^{すいこう}）
したので、当時SNSにて発表したものとは、少し違つ
ております。

第
一
章

—
—
十

冬空の
ふゆぞらの

雲から射し込む
くもからなげしむ

陽ひの光
ひかり

じわり温もる
ぬくもる

体と心
からだとこころ

(一〇一二年 一月二七日)

健やかに
けんやかに

育ち上がりし
いくいがりし

子の姿
こすがた

懐かしき日々
なつかしき日々

愛しく想ふ
いとおもふ

(一〇一二年 一月二八日)

我わ
が
心こころ

打うち
碎くだ
かれた

その刹せつ
那な

始めようかと
ひらめいて

決断す

だが問題は

時間と余裕

(二〇一二年 二月 一日)

事こと
を悟さ
らん

もはや戻らぬ

(二〇一二年 一月 三〇日)

雪化粧
ゆきげしょう

全てを白く

染め上げし

妙なる景色に
たゞけしき

此の胸弾む
こゝろはざわ

(一一〇一一三年二月一日)

憎き者
にくきもの

もう会うまいと

えにし切り

身内の情も
みうちのじょうも

かなぐり捨てん
かなぐりてん

(一一〇一一三年二月一日)

朝早く

支度しながら

其の報せ

見聞きをしては

一喜一憂

(一〇二三年 二月二日)

かすみ草

目立つ花では

あるまいが

小さき姿

まことに可憐

(一〇二三年 二月二日)

寸前に

引き戻されし

我わが命いのち

早まるなといふ

天のお告げか

(二〇一三年 二月 三日)

冷える朝

買つたばかりの

コーヒーの

深き香りに

眠氣も冴え

(二〇一三年 二月 三日)

第二章

一
一
{
—
○

其の災い

或る日突然

拡がりて

明日は我が身と

戦慄走る

(一九二三年二月三日)

これ以上

望みは無いと

思うたが

此の先君と

共に生きたい

(一九二三年二月四日)

突如
とし

現れて
来た

其の者に

重ねて
しまう

君の
面影

(一〇一二年 二月 四日)

自らの

黒く淀みし

人生は

愛しき者が

白く塗り替え

(一〇一二年 二月 四日)

過
あやま
ちは

外れぬ
かせ
枷と

なり変わり

苦しみ招く
まね

糧とならうぞ
かて

(一九二三年二月五日)

頂
いたなき
に

自らだけと
みづか

知つた時
とき

やつと気付けた

大切なものの

(一九二三年二月五日)

知らぬ間に

一線越えた

あの日から

咎めし声を

只々受けん

(二〇一二年二月五日)

善行と

思ひ行ない

疎まれる

憂い嘆くは

世の生き辛さ

(二〇一二年二月五日)

其の希望

未だ残つた

まゝなので

笑へるうちに

笑つておこう

カラフルな

金平糖を

口に入れ

程良き甘さ

顔も綻ぶ

(一〇一二年二月六日)

(一〇一二年二月六日)

第
三
章

二
一

}
三
○

貴方との

愛が失くなる

悪しき事

遠い未来で

ありますやうに

(一一〇一二三年 二月 六日)

いつだつて

相手ばかりを

優先す

君の気遣い

常に気掛かり

(一一〇一二三年 二月 七日)

あの人

感情を

教えてくれた

必死に抑え

まじないを

振る舞うが

言葉に出せば

速まる鼓動

不安消えゆく

乱れし呼吸

(一一〇一二三年 二月七日)

(一一〇一二三年 二月七日)

誰よりも

強き貴方を

好す
い
て
い
て

追
い
求
め
た
い

唯
ひ
た
す
ら
に

(一一〇一二三年 二月 七日)

片かたほうに

用意をされた

可
能
性

選
ば
れ
る
の
は

果たして何どちら

(一一〇一二三年 二月 八日)

さようなら

お世話になつた

道具たち

感謝をしても

仕切れぬ程よ

(一一〇一二三年 二月 八日)

悉く

居場所と逃げ場

奪われて

生ける希望よ

何処へ参る

(一一〇一二三年 二月 八日)

傘
の
中

一
人
一
緒
に

入
る
な
ら

離
れ
ぬ
や
う
に

腕
を
組
も
う
か

(二〇一二年 二月 八日)

ど
う
し
て
も

何
か
を
決
め
る

時
に
だ
け

自
分
と
対
話

試
み
や
う
ぞ

(二〇一二年 二月 八日)

【あとがき】

『はねず日記』第一集、如何いかがでしたか？

筆者として当歌集を、最後まで読んで下さった事に、深く感謝しております。

SNSでは短歌を投稿する度たび、他の方々かたがたがその都度とど見て下さるので、私にとっては、確かな励はげみとなっていました。

他の歌人かじんユーザーさんによる、素敵な短歌を見つけては、感銘かんめいを受けると同時に「どうしたらこういう短歌よを詠よめるのだろう？」と、考えてしまいます。私自身、ほぼ手探り状態てさぐで毎回、自分なりの短歌を詠よんでいるので、やはり尚更なおさらです。

それと時たまに「自分の短歌の詠み方よ、コレであつてるかな?」「大丈夫かな?」と、自問自答する事がありますが……。その場合は一旦立ち止まり、短歌の基本を調べたりして、復習するようになります。

でも結局、肩肘張らずに自分の気持ちを、最大限に表現するのが一番だと、私なりに結論付けてますね！

次巻である『はねず日記』第二集も、近いうちに出したいと思っているので、興味があれば是非とも、手に取ってみて下さい。

ご感想じょうじも常時じょうじょう、SNSなどで受け付けております！

皆様の短歌ライフが、より豊かになる事を、心から願つて……。

短歌集 はねず日記 第一集

発行日：2025年 1月 27日

著 者：鹿江 朱華

連絡先：svwft66918@yahoo.co.jp

印刷所：セブンイレブン、
ファミリーマート、
ミニストップ、
ポプラグループ、ローソン

X（旧Twitter）ID：[@hnz97713518](https://twitter.com/hnz97713518)